

～2023年 ニッポンハムグループ IR DAY～

# 北海道日本ハムファイターズ ボールパークプロジェクト

2023年2月28日

日本ハム株式会社 執行役員 経営企画本部長 藤原 寛英  
スポーツ・グループ営業推進部 部長 西田 岳士

1. 本プロジェクトの概要
2. スケジュールと進捗状況
3. 目標収支に対する進捗状況
4. 社会的価値創造

## 1. 本プロジェクトの概要

## 2. スケジュールと進捗状況

## 3. 目標収支に対する進捗状況

## 4. 社会的価値創造

## スポーツと北海道を融合した新しい街づくり

本プロジェクトは、「単なる新しい球場」から大きく一步を踏み出し「**スポーツの価値**」と「**北海道の価値**」の融合したモデルで新しい「**街づくり**」に寄与していくプロジェクトです。

## 野球事業と非野球事業のMIX

少子高齢化社会の中で競技者人口の増加による球界・スポーツ界の発展といったオールド・スタイルではなく、**野球をエンターテインメントの1つとして位置付け**、ファンになっていただくために、**野球に興味のない方々にも来場いただけるエリアを醸成**していきます。

## パートナーとの共創による多種多様な方々が集うエリア

プロジェクトの**コンセプト**は「**共同創造空間**」。日本ハムおよびファイターズで街づくりを行うのではなく、**官民学の多岐に渡る事業者**に**パートナー参画**いただき、パートナーと**共に街づくり**を担って参ります。

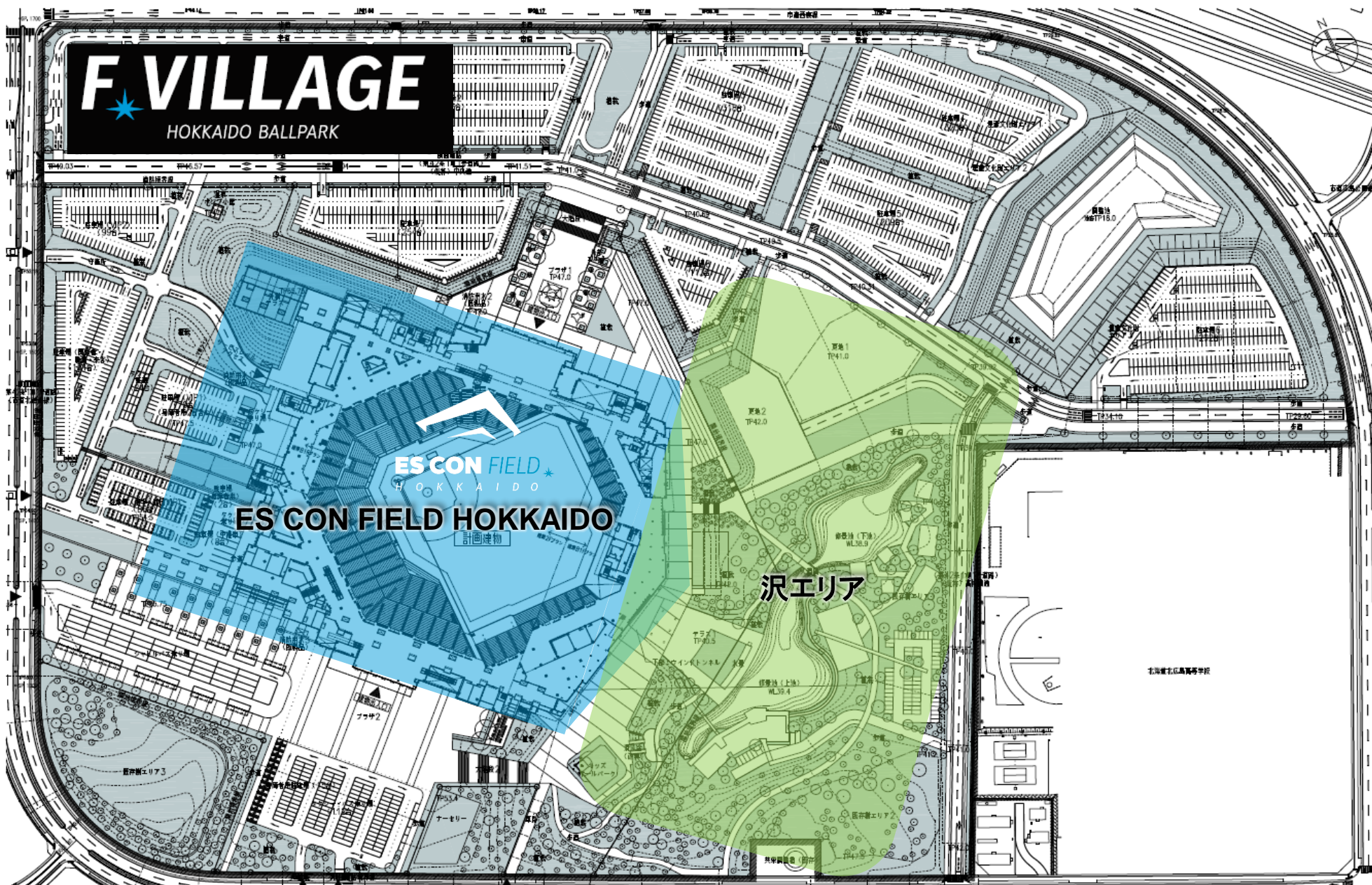
## 球場を核としたプラットフォーム事業

ボールパークにおけるファイターズの位置付けは、**プロジェクトの牽引車(リーダー)**であり、**プラットフォーム**です。ボールパークで楽しむ方々と各種商品・サービスを提供するパートナーの方々と結びつける**基盤(プラットフォーム)**を整備し、**パートナー間で共創・連携による街づくり、そしてイノベーションを生み出して行きます**。



北海道の自然という資源をテコに野球に興味があるなしに関係なく、  
多種多様な方々が集えるエリアとして、77億人のグローバルなマーケットに切り込む

# 1. 本プロジェクトの概要

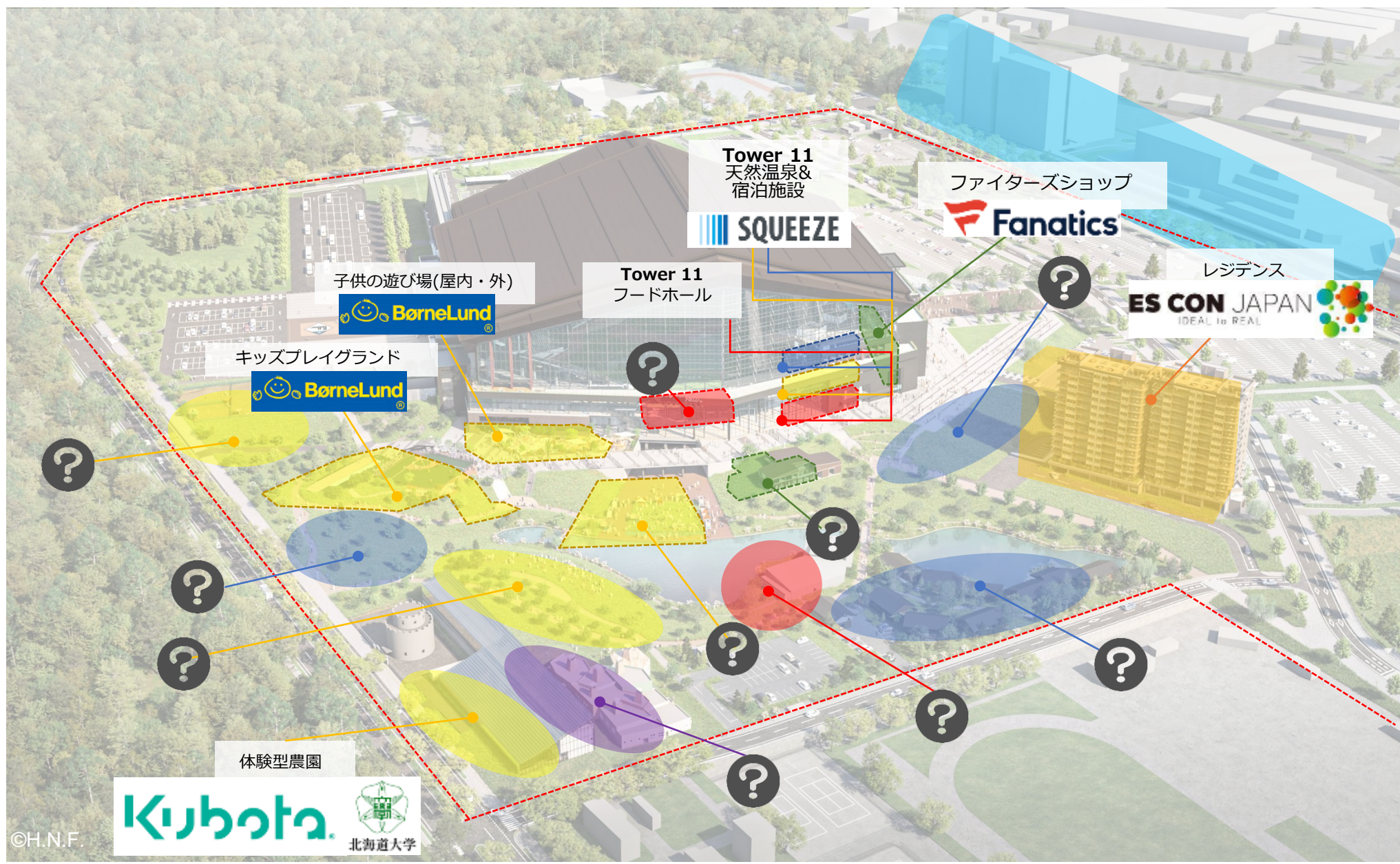


# 1. 本プロジェクトの概要



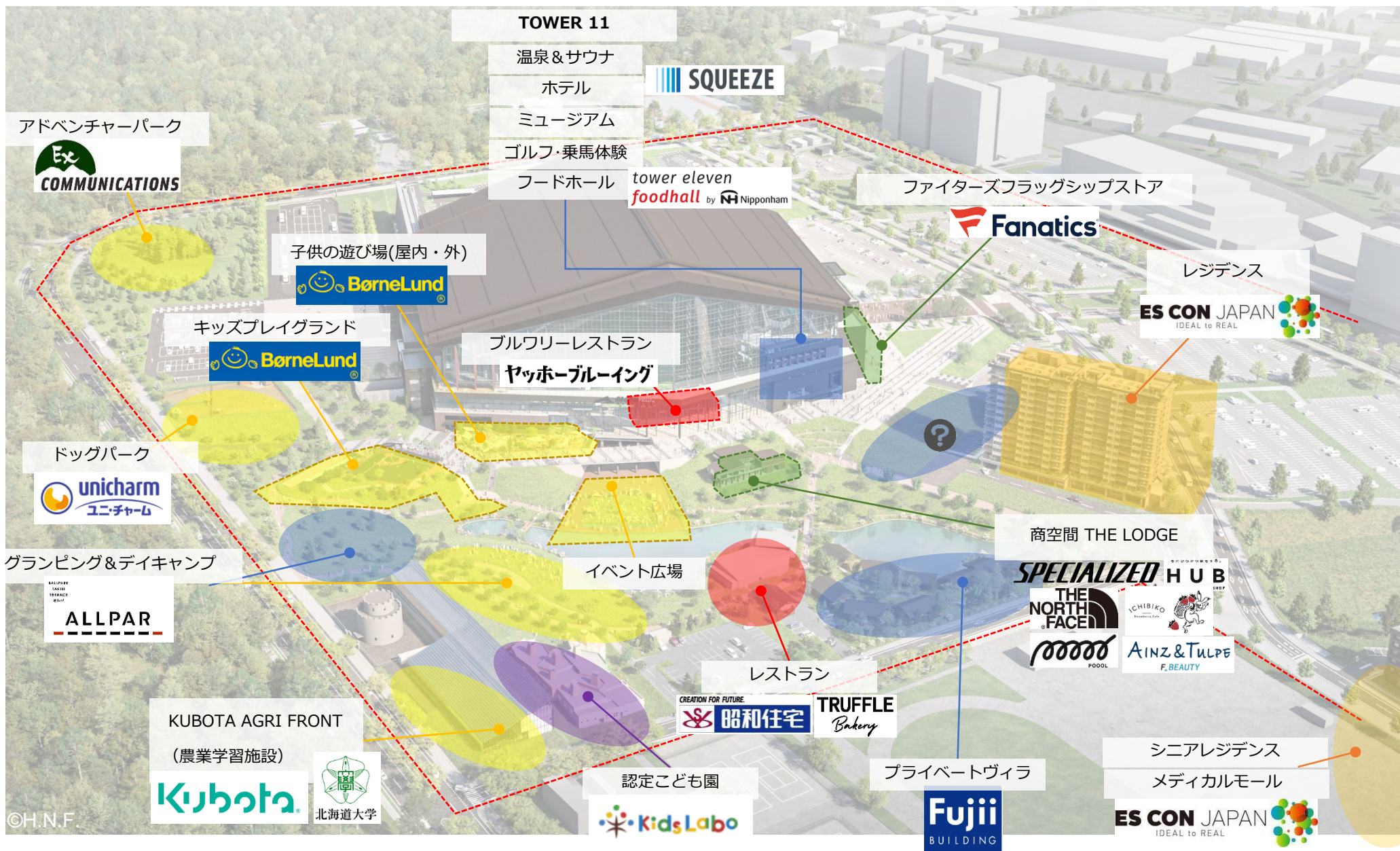
©H.N.F.

# 1. 本プロジェクトの概要 ~2022年 1月時点~



©H.N.F.

# 1. 本プロジェクトの概要 ~2023年 2月時点~





# 1. 本プロジェクトの概要



**これまでの「プロ野球事業」のみから、リアルな「プラットフォーム事業」への転換**

## 1. 本プロジェクトの概要

## 2. スケジュールと進捗状況

## 3. 目標収支に対する進捗状況

## 4. 社会的価値創造

## 2. スケジュールと進捗状況

HOKKAIDO NIPPONHAM  
FIGHTERS

新時代

FANS ARE OUR TREASURE

## 2. スケジュールと進捗状況 ~これまでの振り返り~

### これまでの振り返り／トピックス

2015年 4月	社内プロジェクト発足
2016年 5月	メディアに新球場構想が記事化
〃 6月	<b>北広島市が誘致を表明</b>
2017年 1月	北広島市、札幌市と実務協議がスタート
〃 6月	球団が目指すべき姿となる構想をパースにて公表
2018年 3月	<b>きたひろしま総合運動公園に内定 (→2018年10月に正式決定)</b>
〃 11月	ファイターズが新球場の基本計画を発表 ※北海道、北広島市、球団で連携協定を締結
2019年 10月	新球場の所有・運営会社である <b>ファイターズ スポーツ&amp;エンターテインメント(FSE)</b> 設立
2020年 1月	新球場名が「ES CON FIELD HOKKAIDO」に決定 ボールパークエリアが「HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE」に決定
〃 5月	<b>Fビレッジ、ES CON FIELD HOKKAIDO「工事着工」</b>
2022年	各種パートナーの決定およびエリア・機能の発表。年間シート、チケットの発売
2023年 1月	新球場「竣工」、球団事務所の「ES CON FIELD HOKKAIDO」内に移転
2023年 3月	<b>Fビレッジ開業、ES CON FIELD HOKKAIDO開幕戦</b>

- ・ファイターズ(球団)の事業部門を切り離し、球場保有・運営を含む事業全般を担う会社を設立。
- ・出資企業はファイターズ、日本ハム、電通、MINTO(一般財団法人 民間都市開発推進機構。国土交通省所管)の4社。出資金総額240億円。

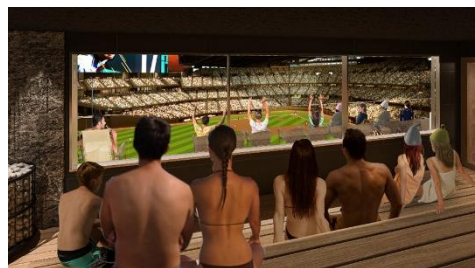
開業3年前に(株)日本エスコと国内最高額のネーミングライツ(命名権)契約を締結。

# 2. スケジュールと進捗状況 ~2021年の振り返り~

➤ 2021年はエリア・球場の安心感等を醸成するため、リリースによるパブリシティを主として行った。

## -2021年-

- ① 4月27日 スポーツ庁・経済産業省の「[多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ](#)」に選定
- ② 6月29日 SDGsへの取り組み発表
- ③ 8月 7日 エリアビジョン「PLAY HUMAN.」制定
- ④ 8月17日 [ボーンランドとキッズエリア事業提携](#)
- ⑤ 8月17日 日本エスコンの[レジデンスプロジェクト発表](#)
- ⑥ 8月30日 [東急コミュニティーと施設統括管理業務に関する契約締結](#)
- ⑦ 9月 7日 VRでの新球場体験実施（1か月間）
- ⑧ 9月12日 新球場の1/350スケールLEGO展示、体験会（1か月間）
- ⑨ 10月 8日 新球場に刻印レンガを敷設「[THE BRICK](#)」販売開始
- ⑩ 10月 9日 農園事業に関して[クボタ、北海道大学と3者連携協定調印](#)
- ⑪ 11月22日 2023年夏の高校野球 南・北北海道大会 [新球場での開催決定](#)
- ⑫ 11月30日 建設地オンラインツアー開催
- ⑬ 12月 1日 HOKKAIDO BALLPARK ART PRIZE2023 募集開始
- ⑭ 12月 5日 2022年新人団選手が建設地見学
- ⑮ 12月21日 [TOWER11の概要第1弾発表](#) 宿泊・温浴施設について



FSE川村社長、クボタ北尾社長、北大資金総長



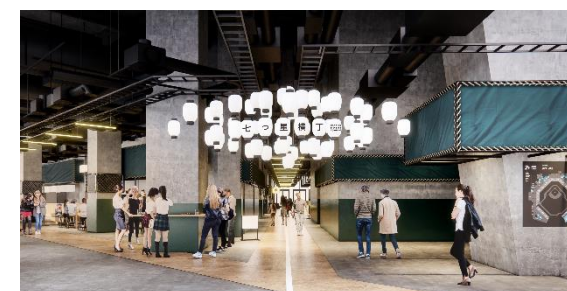
クボタ

## 2. スケジュールと進捗状況 ~2022年の振り返り~

➤ 2022年はパブリシティ & リリース、そして収益に直結する純広告を積極的に行いました。

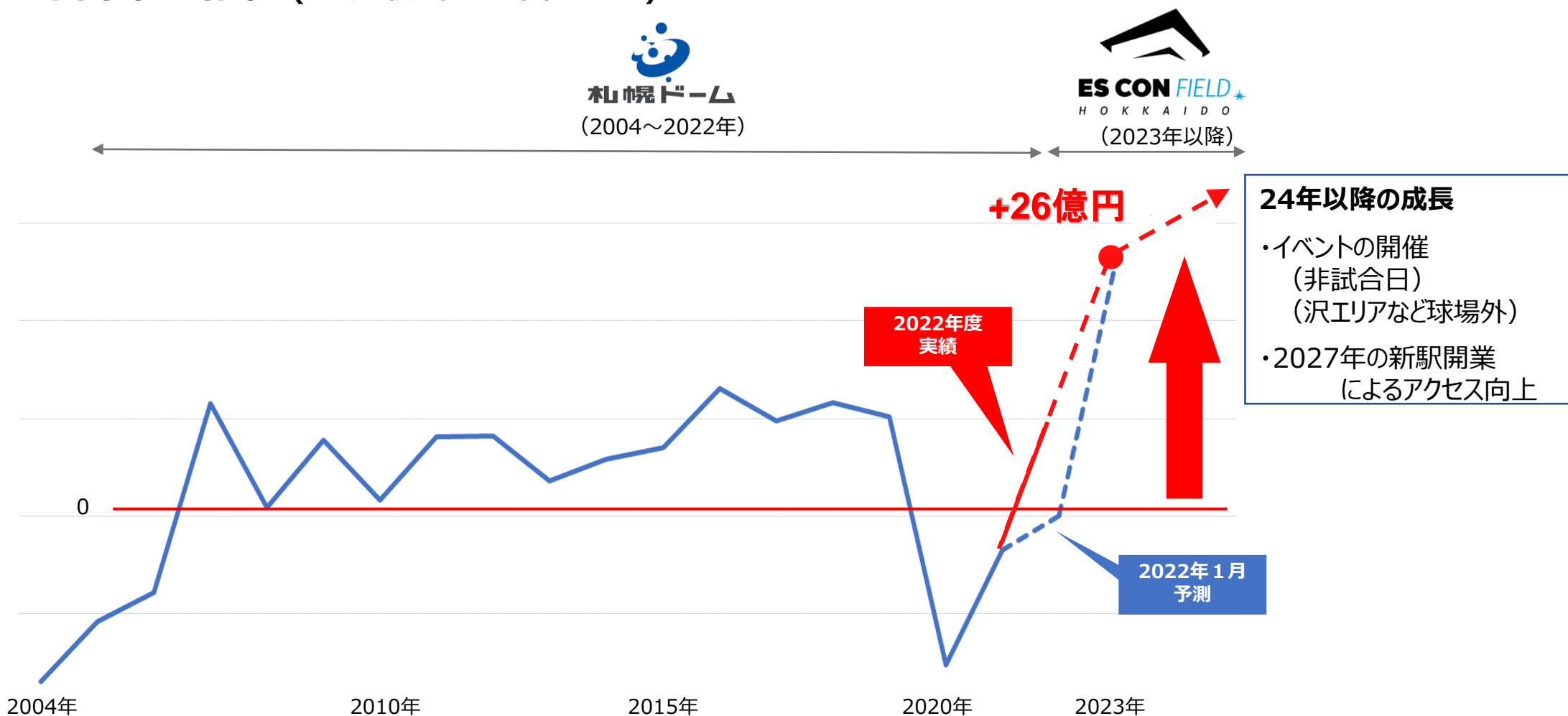
### -2022年-

- ① 1月22日 F VILLAGEへの教育旅行説明会開催のお知らせ
- ② 2月 2日 ESCON FIELD HOKKAIDO2023年シーズンシート優先お申込み開始
- ③ 2月 9日 F VILLAGEプレミアムバス事業の取り組み
- ④ 2月24日 多世代交流の場を目指し、認定こども園の開園を決定
- ⑤ 2月25日 2024年シニアレジデンス、メディカルモールの開業を決定
- ⑥ 3月10日 ヤッホーブルーイングとの共同事業でクラフトビール醸造レストラン
- ⑦ 5月19日 北海道コカ・コーラと防災拠点・リサイクル素材利用等
- ⑧ 5月26日 F VILLAGE内にプライベートヴィラ宿泊施設を決定
- ⑨ 6月 8日 水辺エリアの結節点となる「THE LODGE」を決定
- ⑩ 6月30日 三菱地所パークスと駐車場の運営管理に関する基本合意契約締結
- ⑪ 7月20日 パナソニックの製品や演出ノウハウを取り入れるパートナーシップ契約を締結
- ⑫ 7月26日 スペシャライズド・ジャパンとサイクルスポーツ関連事業の展開を決定
- ⑬ 8月25日 ゴールドウインとTHE NORTH FACE直営店出店を決定
- ⑭ 8月31日 日本ハムとファイターズの共同事業「TOWER11」にてフードホール展開を決定
- ⑮ 9月 8日 パワー・ステーションとグランピング及びデイキャンプ事業の展開を決定
- ⑯ 9月21日 マツカゼと乗馬シミュレーターを使用したスタジオ型乗馬クラブを決定
- ⑰ 9月29日 “試合終了後も飲んで食べて語らえる”全国の有名店が集う横丁エリア展開決定
- ⑱ 10月 4日 大正製薬と親子でFビレッジに来たくなる環境、子どもが学び・遊べるプログラムの展開を決定
- ⑲ 10月12日 ES CON FIELD HOKKAIDO内のTOWER11にウォールアートが完成!
- ⑳ 10月24日 北海道ボールパークFビレッジの所在地が北海道北広島市Fビレッジになることが決定
- ㉑ 10月27日 「TOWER 11」に革新的なミュージアム「tower 11 museum」をオープンを決定
- ㉒ 11月 8日 EXコミュニケーションズとアドベンチャーパーク事業の展開を決定
- ㉓ 11月29日 ユニ・チャームと人とペットとの共生社会の実現におけるパートナーシップ契約を締結
- ㉔ 12月 8日 三菱地所によりワーケーション施設を展開することを決定



1. 本プロジェクトの概要
2. スケジュールと進捗状況
3. 事業収支
4. 社会的価値創造

## <営業利益推移 (過去実績および将来収支予想)>



- ・2004年より札幌ドームを本拠地として利用。2004年~2022年までの営業利益は▲17億円~+13億円のレンジ。
- ・2023年からはビジネス環境も変わり、ワンステップ上のステージで収益・利益拡大を図る。

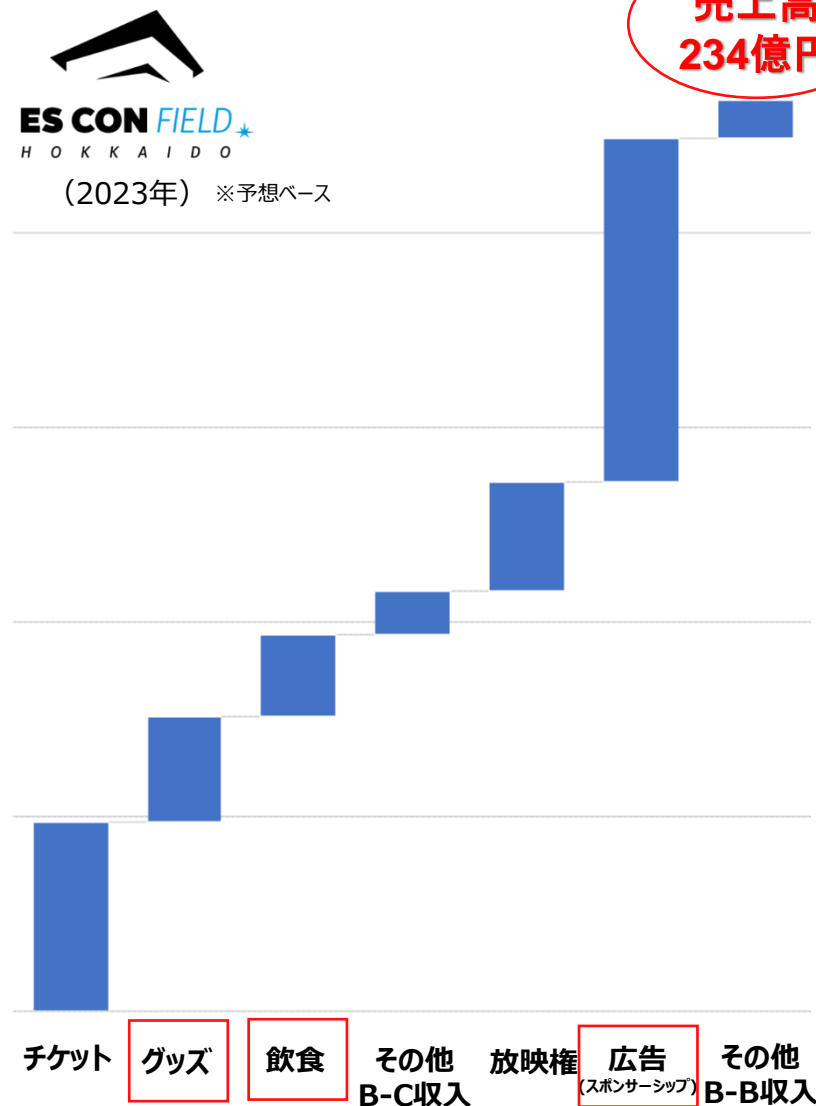
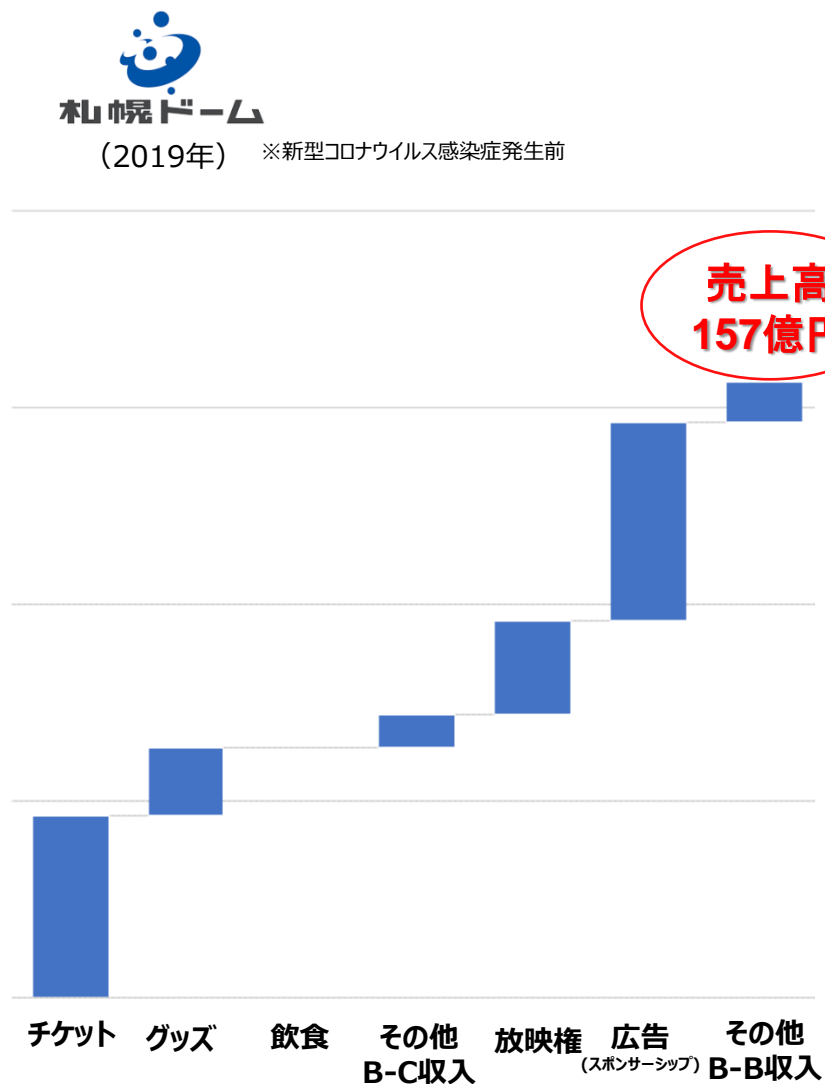
【注1】 記営業利益(経理決算)の2021年以降は(株)北海道日本ハムファイターズと(株)ファイターズ スポーツ&エンターテインメントの連結ベース。両社ともに決算期は1-12月。

【注2】 営業利益には日本ハム(株)からの広告収入は含み、2012年および2017年に発生したポスティングマネーは含んでいない。

【注3】 年間来場者数を300万人と想定(野球事業 200万人、その他集客策 100万人)



## <売上構成 Before/After>



- ・2023年からはビジネス環境の改善に伴い、グッズ、飲食、広告(スポンサーシップ)をメインに+77億円の売上増加を見込む。
- ・広告(スポンサーシップ)の売上は約1.8倍に増加するが、昨年より営業活動を進めており、既に予想数値の約95%は契約済み。

## <広告(スポンサーシップ)アイテム事例>

### ①ネーミングライツ(命名権)



- ・スタジアム・ネーミングライツ(球場命名権)は日本エスコに販売。
- ・ファシリティ・ネーミングライツ(施設命名権)と呼ばれる「ゲート・ネーミングライツ」「ゾーン・ネーミングライツ」は一部を残してほぼ完売。
- ・名称の浸透を図るため、契約年数は基本的に5年以上(球場命名権は10年超)。

### ②球場広告看板



- ・これまで球場内の広告収入は全て札幌ドーム。新球場ではファイターズに帰属。LED表示、テレビカメラワークと連動させ、より効果的かつ効率的な広告を展開。
- ・3層構造の球場のため、広告スペースも多く、収入増が見込める一要因になっている。



### ③アクティベーション



- ・球場・ボールパークにおいて「新商品およびサービスのショーケース機能」を提供。スポンサー企業は新技術の実証実験や新商品・サービスの市場調査にも活用。
- ・来場者への商品サンプリングや企業と球団共同でのイベント・キャンペーン等も実施。



### ④チーム関連



- ・監督・コーチ・選手が着用するキャップ・ユニフォーム・ヘルメット等の広告。
- ・プロ野球リーグにて掲出箇所およびサイズ等の規定あり。
- ・1箇所あたり年間数千万円～1億円超のレベル。

1. 本プロジェクトの概要
2. スケジュールと進捗状況
3. 事業収支
4. 社会的価値創造

## 北海道のシンボルとなる空間を目指す



北海道ボールパークFビレッジは、プロジェクトに賛同する産官学の「パートナーシップ」により「持続可能なまちづくり」を目指しています。地域社会の将来を担う「子供」の多様な選択肢と成長に寄与する活動に注力していきます。



### Fビレッジが注力する「子供」

- ・小学生以下のエスコンフィールド入場無料化
- ・球場内外に子供が安全に遊べるエリアの設置、育成プログラムの整備
- ・地域社会の課題を学ぶ場や職業体験の場の提供
- ・食育活動の実践 etc.



### Fビレッジが目指す「持続可能な街づくり」

- ・子供から大人まであらゆる世代の人々が集い交流する空間・コミュニティ育成の場の整備
- ・全ての人々が安全で容易に利用できる持続可能な輸送システムの提供（EVバス活用等）
- ・有事の際の防災拠点、地域の広域避難場所としての機能の保有 etc.

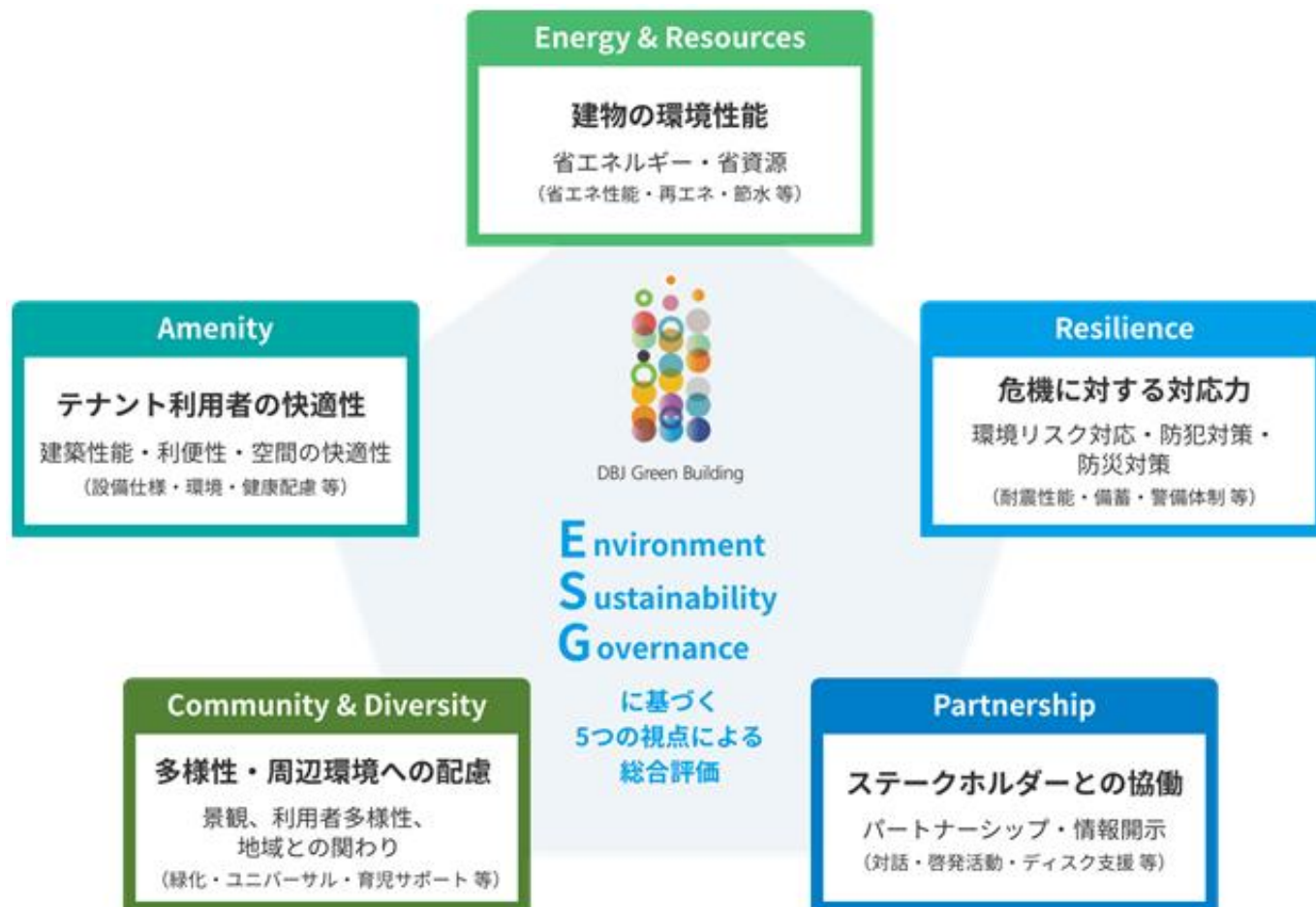


### Fビレッジが推進する「パートナーシップ」

- ・各行政機関、圏域自治体、企業、学識経験者が一体となった「オール北海道ボールパーク推進協議会」のテーマ別分科会による諸課題解決の推進
- ・産官学隔たりなく連携・協業し、汎用型価値創出を目指した事業の推進 etc.

# 4. 社会的価値創造 ～環境・社会への配慮～

新球場エスコンフィールド北海道は、2021年2月にDBJグリーンビルディング認証5つ星を取得。持続的な成長、まちづくりの実現、災害時の避難場所といった社会的価値に加え、省エネ・省資源による環境負荷低減の取組が評価され、同認証制度において5つ星を取得しました。



# 世界がまだ見ぬ ボールパークを つくろう。

創造しよう。

見たことのない球場を。

創造しよう。

これまでにないスポーツ観戦の形を。

創造しよう。

スポーツが暮らしに根付いた次世代の街を。

ここは、チームプレーで社会をより良く変えていく  
共同創造空間。

誰も試さなかったワクワクするようなやり方で、  
感動を、熱狂を、活力を、健康を、  
つながりを、安心を、つくっていく。

新しい世界をつくるのは、  
きつと新しい世界を夢見た人だけだから。

共につくろう。世界がまだ見ぬボールパークを。

**HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE、2023年開業**

**F VILLAGE**  
HOKKAIDO BALLPARK